

令和4年度第3回昭島市青少年問題協議会

昭島市子ども・若者未来対策推進計画策定専門委員会議事要旨

開催日時	令和4年11月4日（金）19:00～20:15
開催場所	アキシマエンシス校舎等2階201会議室
出席者	<p>【委員】</p> <p>紅林 由紀子（委員長）、長野 基（副委員長）、臼井 規次、香月 温子、美座 孝明、指田 守昭、廣光 梅子、畑尾 伸之介（昭島警察署長代理）</p> <p>【事務局】</p> <p>滝瀬子ども家庭部長、葉袋子ども育成課長、久保田子ども育成支援担当係長</p>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1 : 「昭島市子ども・若者未来対策推進計画」（素案） ・資料2 : 令和4年度第2回昭島市子ども・若者未来対策推進計画策定専門委員会議事録要旨
傍聴者	2名
議事要旨	<p>1. 開会 滝瀬子ども家庭部長</p> <p>2. 挨拶 滝瀬子ども家庭部長</p> <p>3. 議題 (1) 昭島市子ども・若者未来対策推進計画（素案）及びパブリックコメントの実施について 資料に基づき事務局より説明した。</p> <p>【紅林委員長の進行により質疑応答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料の83、84ページの計画検討の経過等については、後から記入するのか。 →掲載内容については、これから検討する。 ・パブリックコメントの段階では、この状態で出していくのか。 →資料として出す部分は、これから検討し、出す出さないを含め決める。 ・事務局からの説明にあった最後の指標の部分をもう一度説明してもらいたい。 →計画の中では、例えばこれを何人に増やします等数値で指標として載せることがよくあるが、必ずしもその数値が増えるからといって、それが善処された改善されている、良い方向に向かったということではないということがある。そのため、指標は、今回の計画に載せないが、ここに載っている事業の令和3年度の数値等をまずは現状値としてあげて、毎年状況を確認し、事業の進捗の評価をしていくことをこの計画では、進めていく。 ・令和3年度の各事業の実績を出して、それが年度ごとにどう変化していったのかということの数値としてまとめておくということか。それは、色々な事業があると思うが、それ

それぞれについて全部か。

→そうである。

・今ある事業について、これから、担当課に現状値として、数値等を確認する。計画の付属資料等に今後追加することを考えている。

・今回とったアンケートは、毎年続けていくのか。隔年か。

→昨年実施した小学校5年生・中学校2年生、若者、保護者のアンケートは、毎年ではなく、計画の改定等のタイミングで、改めて実施する。

・素案71ページの進捗計画に、計画改定時には基礎資料としてアンケート調査を実施し、と示されているが、今回調査と同様の調査をするのか。

→そのとおりである。基本的には、今回やったアンケートの内容と同じものでなければ比較ができないと思うので、そこに社会情勢などを加味した内容で実施すると思われる。

→この計画は、9年まで続く計画なので、その前年から改定作業に入り、さらにその前年に調査をかける。

・本来なら、もう少し短期にデータがほしいが、なかなか難しいと思うので、そういう計画であれば理解をする。

・短期に、部分的にアンケートを行う計画はないのか。

→今のところ、アンケートについては、説明したとおりである。調査することについては、予算がかかるものなので、そういったところも考えねばならない。

・家庭と保護者と子どものアンケートだけだったが、それを取り巻く周りの方々がどう変わっていると感じているかというのも、少しだけ入れてもらいたい。子どもと家庭だけじゃなく、それに付随した方々が、どう変わってきたのか、良くなっているのかいないのか、新たな問題ができていて感じているのかがわかると良い。

・何らかの方法で、無作為でいいので一般の方の声を聞いたらどうか。

→例えば他市等では、子どもや青少年に関わる青少年委員さんや民生委員さん等に、活動の中で感じることや考えること等を聞く場を持っているところはある。同じ形でできるかどうかはこれから検討になるかと思う。

・先生に負担がかかってしまうことになるかもしれないが、学校を出て社会に出てしまうと、若者たちはどういう状況になっているのか、不安はないのか、希望を持っているのかどうなのかがわからない。できれば、ある程度関わっている方々に、良い方向になっているのか悪い方向になっているのか位の感じで聞ければ良いと思う。

・民生委員さん等、地域で子どもや若者、その家庭を支えて見守っているような方々に聞くということか。

・子ども若者に関わる以外の方に無作為にネット上等で聞くのも良いと思う。子どもに関わっていなければ、子どもの貧困なんてあるのか、こんな豊かな国だからそんなことはないと思うかもしれないが、実際はこの貧困というものはあって問題になっている。全然解決できてないということが問題である。

・親が悪いということではなく、社会の問題も少しはあるのではないかとこのところを都もわかってきたところではないか。

・今回の計画では、社会全体で見守っていきましょう、支援していきましょうという方向

となっているので、それが出来始めているのかどうかを見ていくということになるか。
→様々に関わる方達から意見を聞くことは、大変重要だと思う。学校に通っている間は、学校の先生等からの情報提供等で、支援に繋げることもできると思う。学校を卒業してからは、繋ぐことや声を聞くことは、難しいところがある。今ここで、どういったことができるかを明確にお答えできず、大変恐縮であるが、青少年問題協議会や青少年委員さん等地域で活躍・活動されていらっしゃる方からのご意見を聞くとか、無作為で調査ができるかを新たに検討できればよいと思う。

・策定後の計画について、みんなが関わっているのに、全然うまく回ってなかったり、無駄なところがあったりするかもしれない。

・一般の方々を対象とした無作為抽出調査等については、経費がかかって難しいかもしれないので、市民調査等に項目一つ二つを載せてもらうみたいなイメージで、データを取るという方法もあるかと思う。

・この計画策定は、市の施策として皆さんから意見を聞いて進めるということで私も会の代表でこの専門委員会の席に来ているが、この計画は、私達の会のほか外の人達にも公にするのか。

→計画については、公表する。市のホームページや広報等で周知し、皆さんにも協力いただけるようにする。

・計画書は、会のメンバーに渡せるよう用意ができるか。

→紙ベースのものをお配りできるか現時点では不明だが、皆さんがご覧いただけるようにする。

・計画書は、冊子みたいな形で印刷するのか。

→はい。限られた部数になる。また本庁の資料コーナーで閲覧できるようにする。

・71 ページについて、この計画は、既存の事業を組み合わせ活用し、作っていくことだが、状況に応じて、今ある事業をより効果的な形になるように柔軟に進めていくのか。効果的な形を模索していくという説明を記憶している。このPDCAサイクルのアクションで、課題や問題点についての改善や対策を行い、次の計画へ反映させるとあるが、各事業についても、今までの事業を少しリフォームしていくイメージか。

→このPDCAサイクルは、各事業の現状値を数値化にできるところは数値化し、そこで評価をして、どういった方法が良いのか考えていくことになる。そこで各課の事業が新たに展開していくと考えている。

・ということは、このPDCAサイクルにおいて、評価をしたものが、その時期の計画に反映されるだけでなく、既存の事業自体の内容もその都度見直していくということになるのか。

→事業については、各課とどのようにしていくのか検討する。

・各課にフィードバックしていくのか。

→そうである。

→補足だが、事業そのものが変わるということではなくその進め方で変わるということであり、どういうふうにすれば効果的に事業を行えるのかを考えながらやっていくということである。各事業の評価が参考となり一つの事業の進め方が変わっていくということであ

る。

・このような子どもに関するもののパブリックコメントは何件位来たことがあるのか。以前、図書館の審議会に参加した時は、パブリックコメントがすごく少なかった。発信の仕方もあるのかもしれないが、少子化という中で本当に子供のことに関心のある方が実際の位いるのかというのがわかれば教えてほしい。

→子ども子育て支援課で作成した子ども子育て支援事業計画第二期では、計画に関するものの市民意見は22件あったと資料に掲載がある。

・その中で、実際に事業に加わるとか、あるいはその改定を求められて、何か変わったことの実績はあるか。

→市民からの意見の内容と市の考え方や対応を図ることについて、資料に記載されている。

・パブリックコメントをしても変わらないという実績があるとすると、積極的に意見を言うことが縮小してしまうのではないか。例えば、意見を言ったら何か反映されたとわかるものがあると良い。無理に反映する必要はない。計画は時期を見て進めていくことになるので、仕上げられるのかという問題もあると思う。22件が多いのか少ないのかわからないが、図書館の時は少なかった。

・移動図書館のことについては、パブコメでなくても声が上がるが、普段、意見をしている人でもパブコメはしない人がある。計画が推進されていることを広く告知することは大切であり。情報をゲットしようとする人にしか情報が届かないのは問題である。子供のことに、切実な意見が出て、その意見が吸い上げられ、事業の中に反映されることがあれば、有意義である。体裁のためだけにやるようであれば、やる必要ないと思う。広く市民の声を聞き、必要に応じて取り上げられる体制があると良い。

→パブリックコメントは、12月半ばに実施し、届いた意見については、真摯に対応し、反映できるかを検討する。この委員会にも諮る。

・パブコメとは別で、普段の困りごとやこうして欲しいと思っていることを吸い上げるものがあると良い。

・市民調査等を利用して、子育ての事業について知っているかと聞くことでも良い。

・事業が多いが、それぞれの課が評価をすることは難しいのではないか。お子さんのいる家庭とない家庭とでは、関心事も違う。この計画は、ボリュームは多いが、わかりやすいし、よくまとめられているので、冊子にして広く伝えていく義務がある。

・計画を作った終わりではなく、こういう思いでこういうものを作りました、私たちはこうしていきたいと市民の皆さんに訴えかけていくアクションが必要かもしれない。チラシ1枚を広報に載せるような形でもいいのかと思う。ホームページにも計画ができた旨をPRしていくと、昭島市みんなでこれを進めていく雰囲気なのだと感じることができる。せっかく作ったので、是非やってほしい。

・表記について、ひとり親家庭の「ひとり」というのは、ひらがな、それ以外は漢字で良いか。

・25 ページ下の注釈の相対的貧困率の説明で国民1人は算用数字で良いのか。

・26 ページの相対的貧困率の注釈「ひとりあたりの収入」「ひとりあたりの所得」ひらが

なで良いのか。

・41 ページの「子ども若者やその家庭を含めた支援」という見出しがあって、その7行目も確認してほしい。

・「1人で担う」ときは算用数字か。

・43 ページとか44の基本理念で「夢や希望を持って」、基本方針の1-1-5の「やりがいを持って」の「持って」は漢字か。

→「一人一人」は総合基本計画などでも、この形式をとっている。他については、改めて確認する。

・14 ページのグラフは、色の濃淡や縞々がとても見やすくなった。

・14 ページのこのグラフが順番に「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」になっている。この「どちらかといえばあてはまる」は、左上からの斜め線だと思うが、ここは線が細かい。15 ページも、16 ページの左斜め線とずいぶん違う。

→確認する。

・14 ページの下の注釈に自己肯定感のことが書かれているが、15 ページと16 ページの下にも注釈をつけたらどうか。

→検討する。

・自己肯定感のグラフは、それぞれの質問項目に対し、小学生、中学生、若者を並べ、比較して見られる形が良いかと思う。

→前回までの素案では「役に立たないと感じる事が時々ある」という項目を抜き出し、小学生、中学生、若者と並べ、比較できる形をとっていたが、アンケートを取ったものすべてを載せたらどうかという意見があったので、今回このような形にした。全部の質問の比較を載せることは難しい。一部の質問について、抜き出して載せるようになる。

・「他の人と同じように価値がある」と他人を基準にした項目、「自分はいまのままでいいと思う」、「自分にだいたい満足している」という純粋な自己肯定感を聞いている項目、「自分は全然駄目だと思う」と自己否定感ともいうべきマイナスの感覚を聞く項目など3つのカテゴリーで聞いていると思うので、それぞれについて1つとか2つ質問を抜き出すことも良いと思う。

→3つぐらいの種類に分けた形で並べることができるのか検討させていただきたい。

・他の委員の方は、小学生、中学生、若者とバラバラでも全部載せた方が良く思うか。

・一応、これはこれで参考になるなと思見比べている。

・このまま載せておいた方が良くという感じか。

・そういう気がする。このNは、総数か。

→回答があった総数である。

・であるとすれば、すごく少ないと思う。

→小学校は5年生1学年に、中学生は2年生1学年に取り、小学校5年生84.4%、中学校2年生66.5%の子供達の回答があった。

・若者は、どこで周知したか。

→若者は16歳から29歳までの若者で、無作為の1,000人を抽出し、その中で回答をもらった。

<p>・その件どこかに記載があるか。 →まだ載せていない。検討する。</p> <p>・皆さんの意見より、先ほどの自己肯定感のグラフは、このまま掲載ということで良い。 →了解。</p> <p>・44 ページ以降の事業掲載の箇所、例えば 49 ページの事業内容 1-4-2 に（再掲）とある。後ろの方で再掲と出てくると、前から順番に見ていかないとわからない。どことリンクしているかをわかりやすく書いたらどうか。人によって一番興味ある個所を見るので、それを見た時にこの事業ともリンクしているとわかるような表記の仕方が良い。 →前の方にもリンクする番号を載せる方向で検討する。</p> <p>・この計画を読んで日頃の活動の参考とする。 →ご協力をお願いしたい。</p> <p>・24 ページ、いじめ、不登校については相談件数が載っているが、実数は載っていないのか。 →教育の部門と検討した結果、いじめや不登校、他の問題も見られるものとして教育相談室の相談の内容別件数を掲載することになった。</p> <p>・純粋に市民感覚から言うと、例えば 21、22 ページに検挙数や補導状況の実数が載っていて、本当に昭島にはそういう困難を抱えているお子さんがいることがわかって良いと思う。全体の中の色々な相談の状況がこれでわかるが、実際にどの位いるのかとわかるものがあっていいと思う。</p> <p>・不登校といっても、1 週間なのか、1 年なのか、ずっとなのか、いじめも 1 回なのか、10 回あったけどまとめて 1 回として出てきたものなのか色々なケースがあり、表現が難しいのではないかと。</p> <p>・教育委員会では、一つの定義の数はあるが、定義を含めてのお子さんがこう悩んでいるというような実数があっても良いと思った。 →数字の扱いについては非常に難しい。担当課との検討の結果、この数字を用いた。</p> <p>・これまでの意見を参考に、パブコメの計画案となることで良いか。 →そうである。パブリックコメントは、12 月 16 日から開始をする。</p> <p>4. その他</p> <p>・今後の予定は、パブリックコメントを 12 月 16 日から 1 月 16 日を予定している。その結果をもって、次回 2 月のこの会議にて検討をする。日程が決まり次第連絡をする。</p> <p>・机上配付の前回専門委員会の議事要旨について、何かあったら 11 月 18 日位までに事務局へ連絡を。何もなければ、そのままホームページへ掲載する。</p> <p>5. 開会 長野副委員長より挨拶</p>
--